

平成26年度病害虫発生予察予報第2号(5月)

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量
水稲(早期稲)	イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ	平年並 平年並 平年並
水稲(普通期稲)	もみ枯細菌病 苗立枯病 イネミズゾウムシ	やや少 やや少 やや少
カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ カメムシ類	並 並 並 並
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病 つる枯病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多</u> 平年並 少 やや少 平年並 平年並 <u>多</u>
促成ナス	うどんこ病 すすかび病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多</u> 平年並 <u>多</u> 少 平年並
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	並 並 並 <u>やや多</u> 並
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 トマト黄化葉巻病 タバココナジラミ	やや少 少 <u>やや多</u> <u>多</u> <u>やや多</u>

I 気象予報(高松地方气象台 平成26年4月24日発表)

<予想される向こう1か月の天候> 4月26日から5月25日

天気は、数日の周期で変わらるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。

<確率>

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1ヶ月	気 温	四国地方	30	40	30
	降 水 量		30	40	30
	日照時間		30	40	30
1週目	気 温	四国地方	30	50	20
2週目			30	40	30
3~4週目			30	40	30

<予報の対象期間>

1ヶ月 : 4月26日(土) ~ 5月25日(月)

1週目 : 4月26日(土) ~ 5月2日(金)

2週目 : 5月3日(土) ~ 5月9日(金)

3~4週目 : 5月10日(土) ~ 5月23日(金)

II 病虫害発生予想

1. 早期稲の病虫害

1) イネミズゾウムシ

予 想 発生時期:並 / 発生量:平年並
根 拠

(1) 4月下旬の県中央部の予察田における調査では、平年並の発生が見られた。また、向こう1か月の気象予報では気温は平年並と予想されることから、平年並の発生になると思われる。

対 策

(1) 箱処理剤による防除を行えば被害は問題とならない。

2) ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ

予 想 発生時期:並 / 発生量:平年並
根 拠

(1) 耕起前の越冬密度調査では、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカともに平年並の発生で、予察田でもまだ確認されていないことから極端な増加はなく、発生量は平年並と思われる。

対 策

(1) 育苗箱で防除していないほ場で発生が多く見られた場合は、ウイルス病対策もかねて周辺作物への飛散に注意しながら薬剤防除を行う。

2. 普通期稲の病虫害

1) もみ枯細菌病、苗立枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや少
根 拠

- (1) 現在のところ持ち込みの状況や聞き取り等でも特に発生が多い情報はないことから、平年に比べ少ない発生で、今後も大きく増加することはないと思われる。

対策

- (1) 育苗期間中は、温度管理や灌水を適正に行う。

2) イネミズゾウムシ

予想 発生時期:並 / 発生量:平年並
根拠

- (1) 4月下旬の県中央部の予察田における調査では、平年並の発生が見られた。また、向こう1か月の気象予報では気温は平年並と予想されることから、平年並の発生となると思われる。

対策

- (1) 発生の多い地区では箱処理剤による防除を行う。

3. カンキツの病害虫

1) かいよう病

予想 発生時期:並 / 発生量:並
根拠

- (1) 向こう1か月の気象予報では、気温、降水量とも平年並と予想されているため、平年並の発生となると思われる。

対策

- (1) 既発園地では新葉展開期に予防的な薬剤散布を行って、春葉への感染を防ぐ。特に、本病に弱い品種や幼木は防風対策を十分に行い、薬剤防除を徹底する。

2) そうか病

予想 発生時期:並 / 発生量:並
根拠

- (1) 向こう1か月の気象予報では、気温、降水量とも平年並と予想されているため、平年並の発生となると思われる。

対策

- (1) 降雨により発病が蔓延するので、降雨前後の薬剤防除を心がける。

3) ミカンハダニ

予想 発生時期:並 / 発生量:並
根拠

- (1) 病害虫発生予察園(無防除)及び慣行栽培園ともに、4月の発生は認められていない。また、向こう1か月の気象予報では、気温、降水量とも平年並と予想されているため、平年並の発生となると思われる。

対策

- (1) 冬期にマシン油乳剤の散布を行っていない園地では、気温の上昇とともにミカンハダニの発生が予測されるので、発生状況の把握に努める。

4. 促成キュウリの病害虫

1) うどんこ病

予想 発生時期:並 / 発生量:平年並
根拠

- (1) 県全体で平年並の発生であるが、前月より増加傾向である。
(2) 今後、気温の上昇にともない増加傾向で推移すると思われる。

対策

- (1) 防除効果が高い剤が少ないので、発生初期の防除徹底に努める。

2) 黄化えそ病

予想 発生時期:並 / 発生量:平年並

根 抛

- (1) 県全体では平年並の発生であるが、県中西部では発生程度が高いほ場も見られている。
- (2) 今後、気温の上昇にともない、ミナミキイロアザミウマの活動も活発になることが想定されることから増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になるので除去する。
- (2) ミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。詳細はミナミキイロアザミウマの項参照。
- (3) 栽培の終了時には、ウイルスを保毒した虫がハウス外へ拡散しないよう、蒸し込み等を徹底する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:平年並

根 抛

- (3) 県中央部、県中西部で平年より多めの発生であり、寄生密度が高いほ場も見られている。
- (4) 今後、気温の上昇にともない、活動も活発になることが想定される。防除効果が高い薬剤も少なく、増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (2) 薬剤散布に当たっては、生長点付近や葉の裏表に十分かかるよう心がけるとともに、薬剤感受性低下を避けるため、ローテーション散布を行う。
- (3) 栽培終了時には蒸し込み等による防除徹底を図る。

5. 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多

根 抛

- (1) 県東部、西部で多発生となっている。
- (2) 今後、気温の上昇にともない増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発生初期の防除に努めるとともに、耐性菌の発生回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (2) 伝染源となる罹病葉は早めに除去する。
- (3) できるだけ湿度を下げる工夫をし、適切な肥培、水分管理を行い草勢の維持に努める。

2) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多

根 抛

- (2) 県中央部、西部では少～平年並の発生であるが、県東部で多発生となっている。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、温度の上昇にともなって、やや増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (3) 発生初期の防除に努めるとともに、耐性菌の発生回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (4) 伝染源となる罹病葉は早めに除去する。
- (3) できるだけ湿度を下げる工夫をし、適切な肥培、水分管理を行い草勢の維持に努める。

3) すすかび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並

根 抛

- (1) 県下全域で発生面積が増加傾向である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、温度の上昇にともなってハウス内湿度が上昇しやすくなることから、増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発生初期の防除に努めるとともに、耐性菌の発生回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (2) 伝染源となる罹病葉は早めに除去する。
- (5) 25℃内外で多湿条件が発病に適するため、換気や水管理に注意し、ハウス内の除湿に努める。

3) ミナミキイロアザミウマ

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:少

- (1) 県下全域で発生が見られるものの、発生面積、程度とも平年に比べかなり低い。今後、気温の上昇にともない活動も活発になると予想されるが、平年に比べると少なめの発生で推移すると思われる。

対策

- (1) 感受性低下を回避するため同一系統薬剤の連用は避ける。
(2) 薬剤防除だけでなく、青色粘着資材等の物理的防除法や天敵防除も利用し、ハウス内での密度低減に努める。

4) タバココナジラミ

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:平年並

- (1) 県下全域で発生が見られている。天敵を導入しているほ場では問題となる発生量でないが、薬剤防除中心のほ場では、高密度となっているほ場もある。
(2) 向こう1か月の気象予報や現在の発生状況から、現状維持で推移すると思われる。

対策

- (1) 高密度になると防除が困難となるため低密度時期の防除徹底を行う。
(2) 薬剤防除だけでなく、天敵も利用し密度低減に努める。

6. 促成ピーマン・シシトウの病害虫

1) 斑点病

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:平年並

- (1) 県中央部、中西部でやや多めの発生となっている。
(2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、発生面積、発生程度とも増加傾向であることから、この状態で推移すると思われる。

対策

- (1) 発生初期の防除に努めるとともに、耐性菌の発生回避のため同一薬剤の連用は避ける。
(2) 伝染源となる罹病葉は早めに除去する。
(3) できるだけ湿度を下げる工夫をし、適切な肥培、水分管理を行い草勢の維持に努める。

2) タバココナジラミ

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:やや多

- (1) 県内全域で発生しているが、天敵を導入しているほ場では低密度の発生であり、問題となっていない。今後、気温の上昇により発生量は微増すると思われる。

対策

- (1) 薬剤防除を行う場合は、葉の裏表に十分に薬剤がかかるよう心がける。また、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は、感受性低下の恐れがあるので避ける。
(2) 薬剤防除だけでなく天敵防除も取り入れ、ハウス内での密度低下に努める。

7. 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予想根拠 発生時期:並 / 発生量:やや少

- (1) 県内全域で平年よりやや少なめの発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少なく、現状維持と予想される。

対 策

- (1) 蔓延後は防除が困難なので予防散布に努め、耐性回避のため同一薬剤の連用は避ける。
- (2) 菌の侵入源となる花卉や古葉はこまめに除去する。

2) トマト黄化葉巻病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多

根 拠

- (1) 既発生ほ場での発生が続いている。
- (2) 気温の上昇にともない、媒介虫のタバコナジラミの増加が予想されることから、増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 感染源になる発病株は見つけ次第除去し、媒介虫であるタバコナジラミの防除を徹底する。

3) タバコナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 寄生密度は低いですが、平年よりやや多めの発生が続いている。今後、気温の上昇にともない活動が活発となると予想されるため、やや多めの発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 薬剤散布に当たっては、葉の裏表に十分に薬剤がかかるよう心がけ、下葉にも十分に散布する。また、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は感受性低下の恐れがあるので避ける。
- (2) 栽培終了時には蒸し込み等による防除徹底を図る。

県民の皆様に提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

2. こうち農業ネットサービス※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

- ・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）
 - <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/>（Iモード）
 - トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ezweb)
 - 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(y7-)
- ①病虫害発生予察情報（概要）